

住民の水害に対する意識調査結果 ＜京都府域＞



水防災意識社会
再構築ビジョン

住民の水害に対する意識調査

■住民の水害に対する意識調査の概要

- 水防災意識社会再構築ビジョンに基づく『宇治川・木津川・桂川の減災に係る取組方針』に基づき、多くの取組が実施され、住民の水害による避難の意識は着実に変化していると考えられる。
- 更なる取組の推進に向けて、洪水浸水想定区域内の住民を対象に水害意識調査を実施し、現時点の住民の水害に対する意識を分析した。

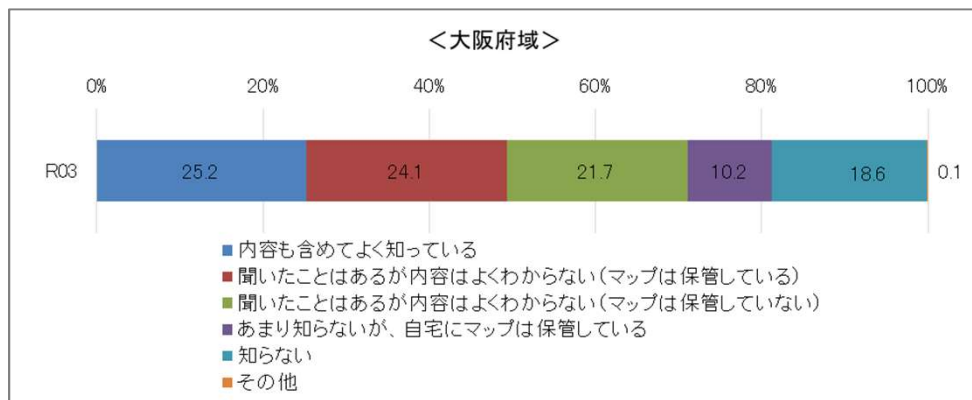
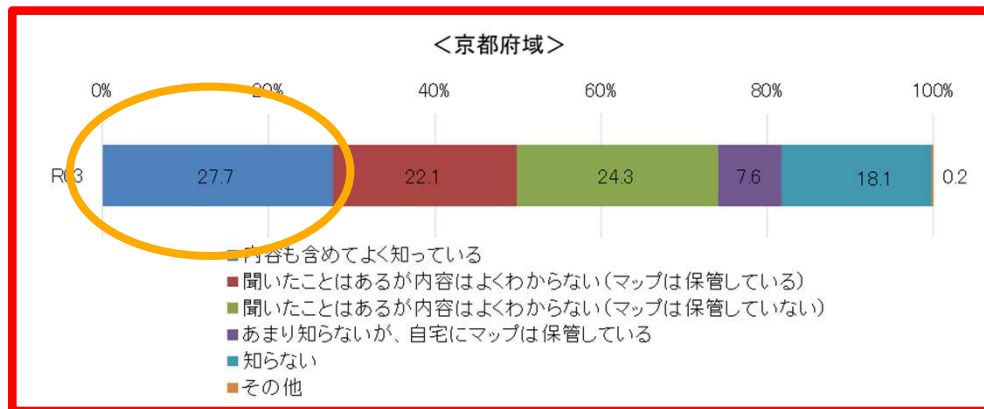
アンケート調査の概要

◆調査期間	令和3年6月8日～6月16日
◆配布方法	WEBアンケート
◆回収方法	WEBによるデータ回収
◆全体回収数	4,094
◆京都府域回収数	1,518
◆大阪府域回収数	2,576

- 同様のアンケート調査を平成27年、平成30年にも実施しており、経年的な変化が見られる回答については比較して示す。
- 今回(令和3年)新たに追加した設問(問6,7)に対する回答も示す。

住民アンケート回答結果 及び 考察

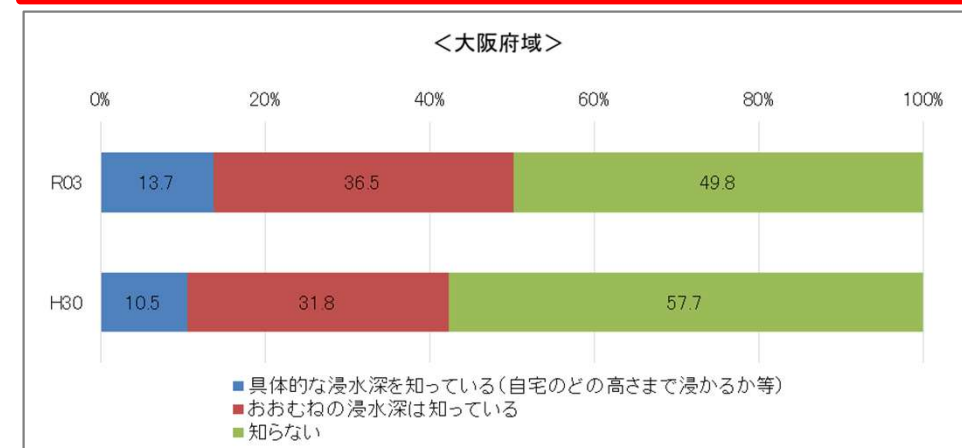
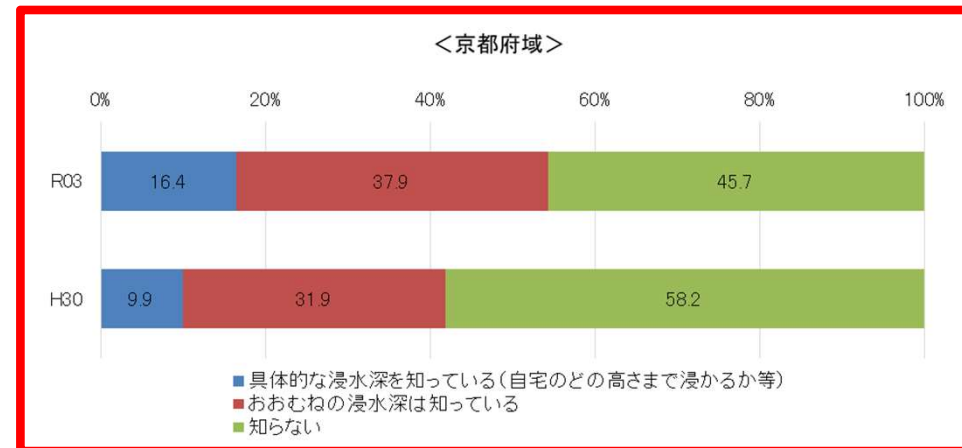
問1. あなたの住んでいる自治体の洪水ハザードマップを知っていますか。



【考察】

- ・ハザードマップを認知している人は全体の約3/4
 - ・内容も含めて理解している人は全体の約1/4
 - ・マップ保有率は約6割弱(認知していない人も含む)
- ⇒ハザードマップの理解促進に向けた取組の強化

問2. あなたの家のそばを流れている大河川(淀川・宇治川・木津川・桂川)が氾濫した場合、想定される自宅付近の浸水深を知っていますか。

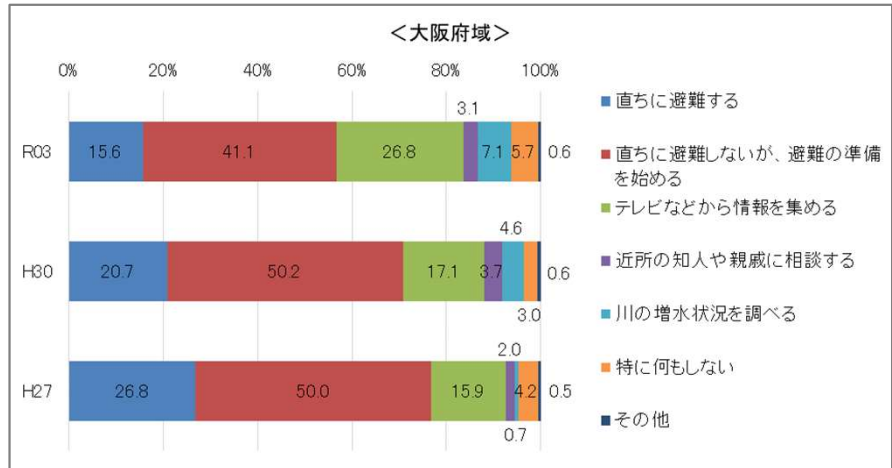
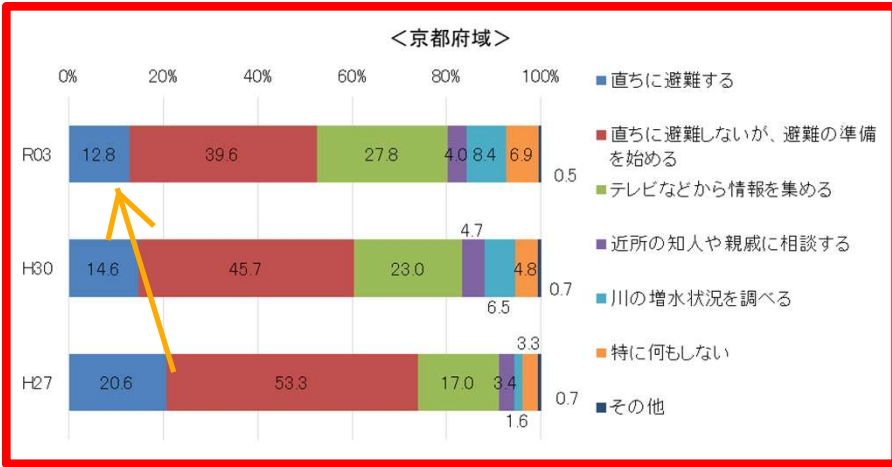


【考察】

- ・自宅付近の浸水深を知っている人が半数以上となり、住民にも周知しつつある
- ⇒水害リスクの把握につながるソフト対策を更に推進

住民アンケート回答結果 及び 考察

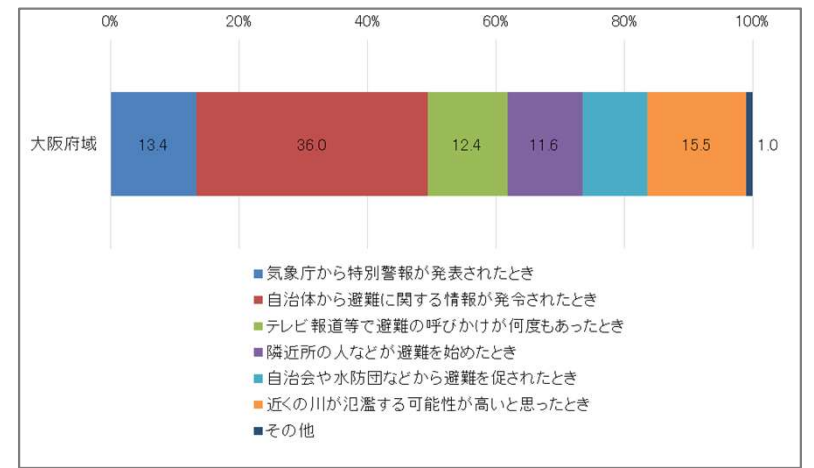
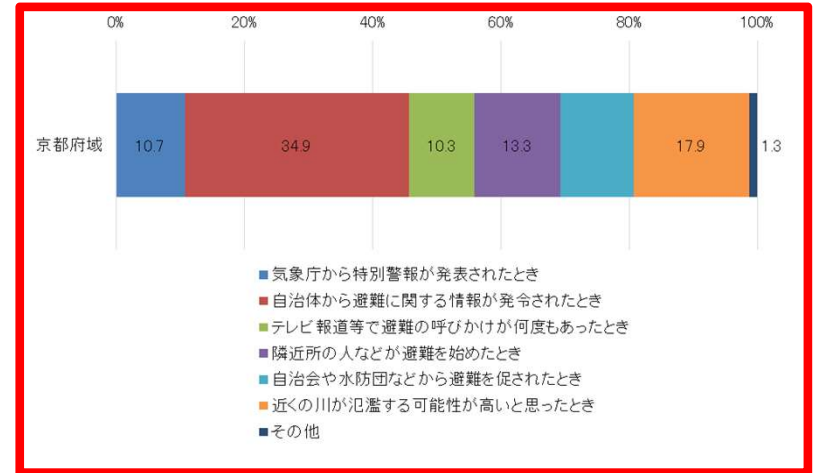
問3. 雨が強まり川が増水し、避難情報が発令された時にあなたはどうしますか。



【考察】

- ・直ちに避難する人や避難準備を行う人の割合は減少
 - ・テレビなどから情報を集める人の割合が増加
- ⇒住民自らが必要な防災情報を収集し、次の避難行動を考える人が増加傾向にある

問4. あなたは避難する場合、いつのタイミングで避難しますか。

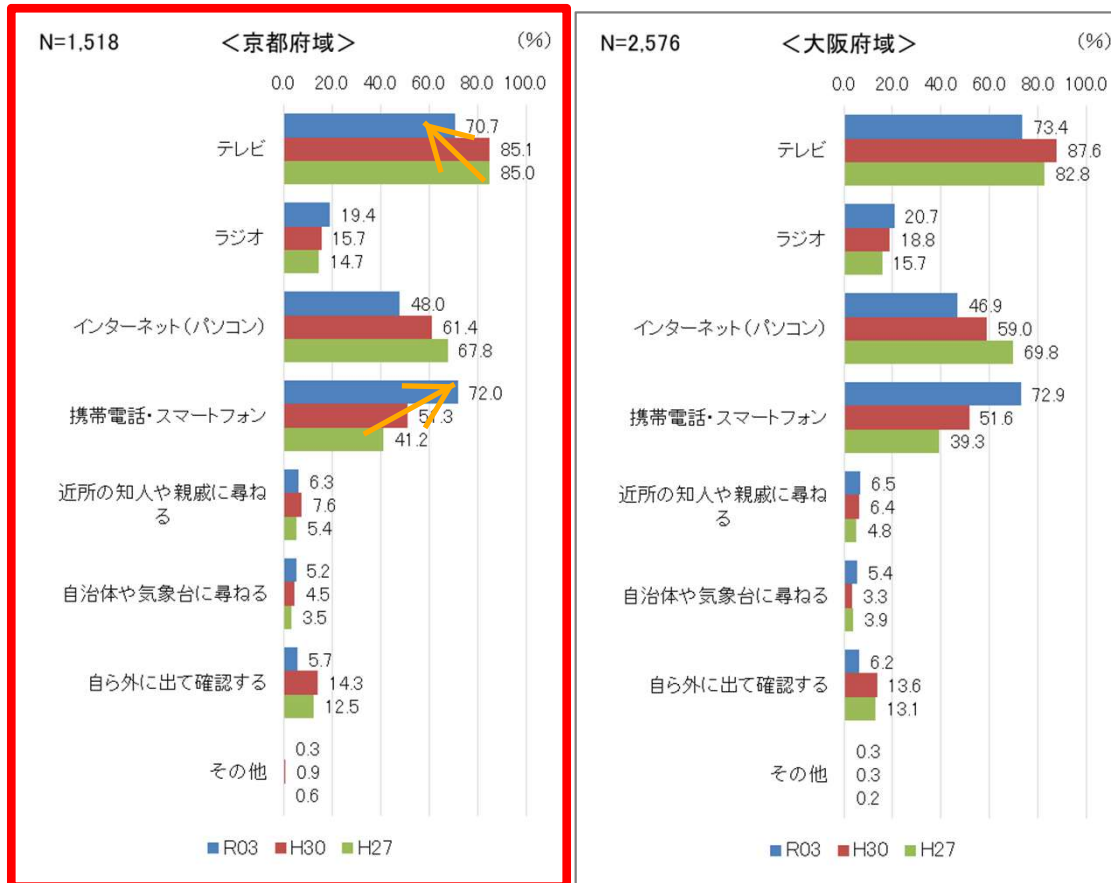


【考察】

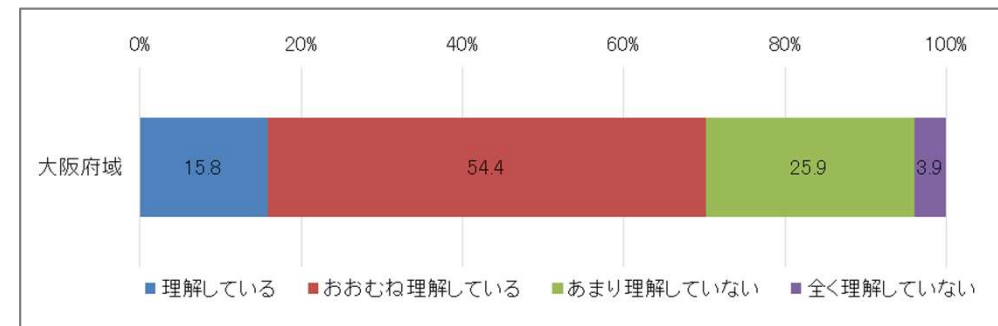
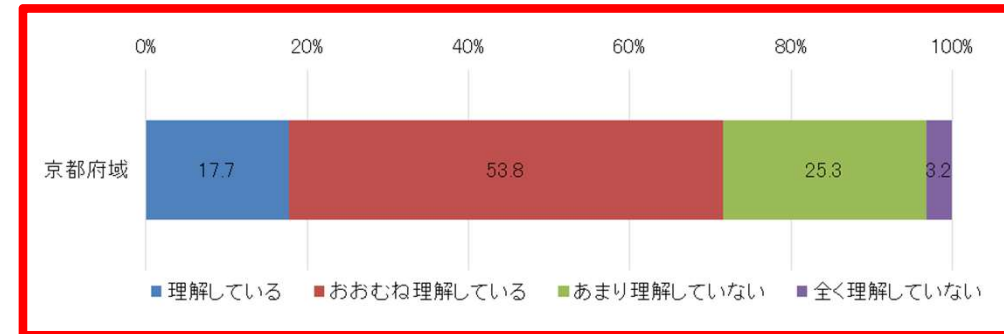
- ・自治体からの避難に関する情報発令が最も多く、全体の1/3以上を占める
- ⇒自治体からの避難情報の確実な伝達・周知が重要 (メディアの連携)

住民アンケート回答結果 及び 考察

問5. あなたは今後の雨量や川の水位などの詳しい情報をどのように入手しますか。



問6. 警戒レベルと避難に関する情報の関係をあなたは理解していますか。



【考察】

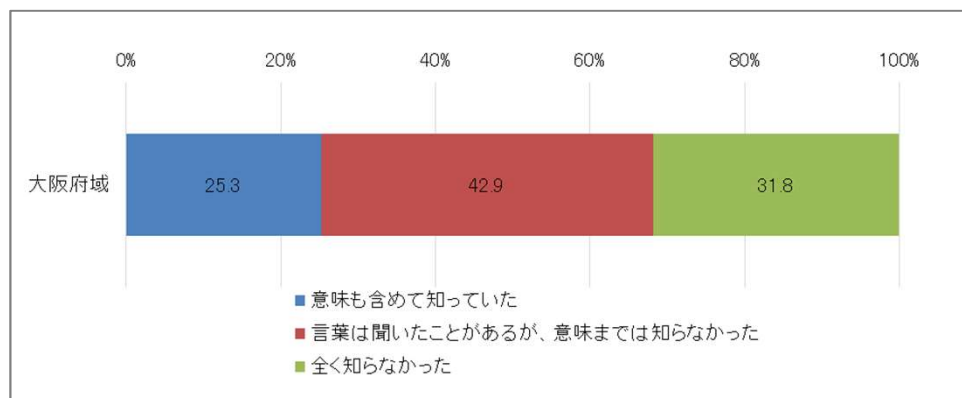
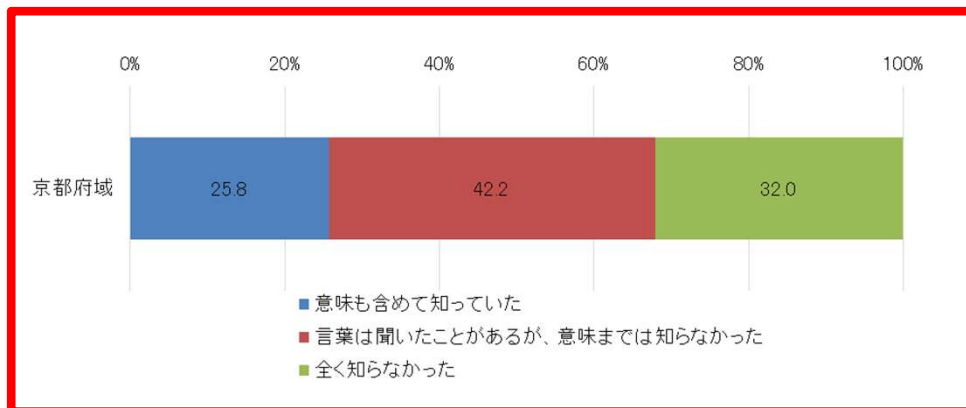
- ・テレビやパソコンの割合が減少
 - ・携帯電話・スマートフォンの割合が増加
 - ・自ら外に出て確認する人の割合は減少
- ⇒スマホの普及によりR3はテレビとスマートフォンによる情報入手が同じ割合に。スマートフォンによる情報伝達方法も検討が必要

【考察】

- ・理解している人の割合が7割以上
- ⇒各種広報・報道等により周知・理解が浸透傾向にある

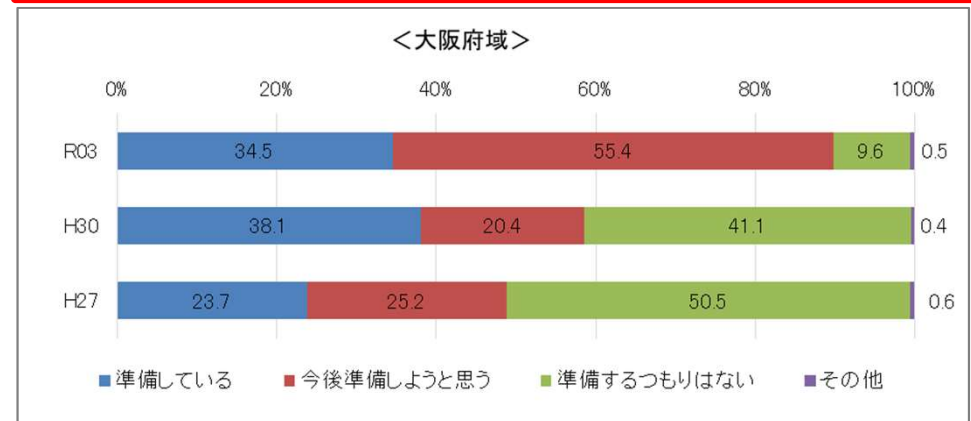
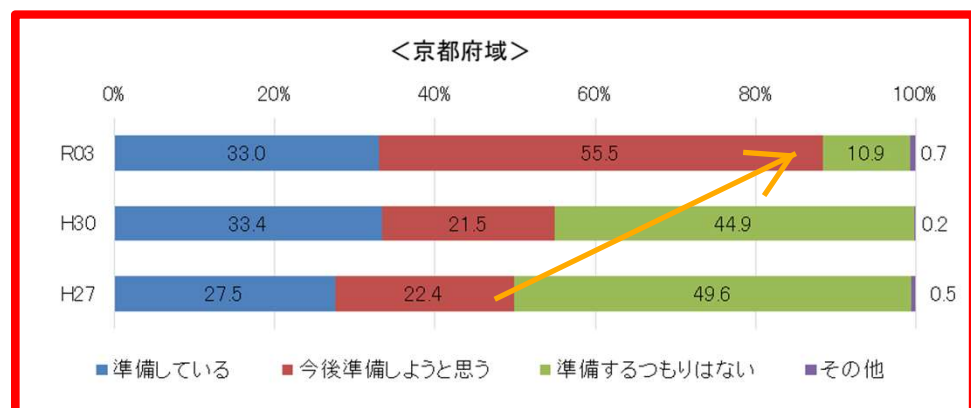
住民アンケート回答結果 及び 考察

問7. 自治体が指定した避難所以外に「親戚・知人宅」「ホテル」「在宅避難」「車中泊」などさまざまな避難先に避難する『分散避難』について知っていましたか。



【考察】
 ・「分散避難」の言葉を知っている人が約7割弱
 ・意味まで理解している人は全体の約1/4
 ⇒コロナ禍における**適切な避難方法**について、**住民への周知、理解促進が重要**

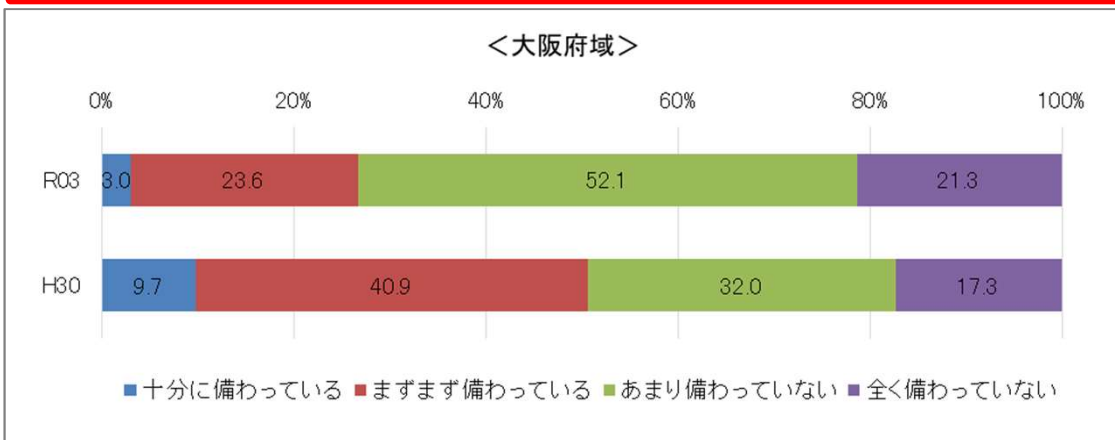
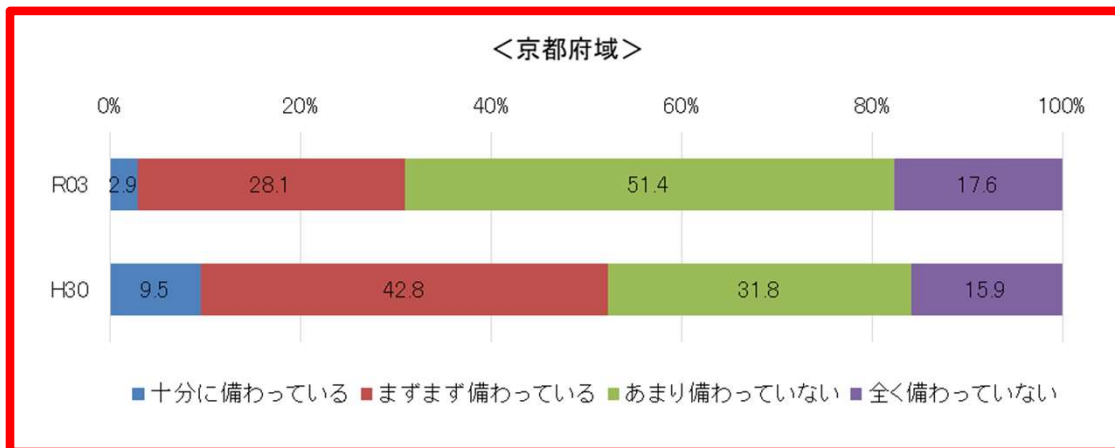
問8. 洪水や地震などの災害に備えて、非常用持ち出し品（非常用保存食、水、常備薬・救急セット、懐中電灯、携帯ラジオなど）を準備していますか。



【考察】
 ・既に準備している人は全体の約1/3
 ・今後準備しようと考えている人の割合が急増
 ⇒**住民の危機意識、避難意識は向上傾向**

住民アンケート回答結果 及び 考察

問9. あなたの住んでいる地域において、行政に頼らず住民同士で協力して助け合う「共助」力はあると思いますか。

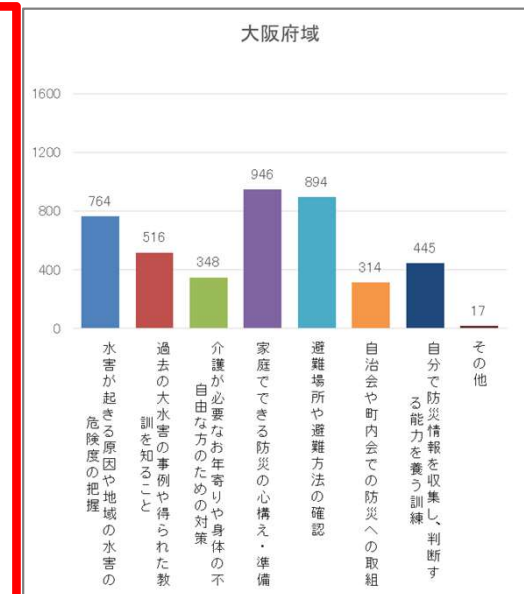


【考察】

・共助力が備わっていると思う人の割合が大幅に減少
(計52%→計31%)

⇒ **地域コミュニティの活性化に向けた取組が重要**

問10. 水害に備えるためには日頃からどのような取組が有効だと思いますか。



【考察】

・「家庭でできる防災の心構え・準備」、「避難場所や避難方法の確認」、「水害が起きる原因や危険度の把握」が多い

⇒ **具体的な避難に直結する取組の有効性が高い**